

ユーカリ油（シネオール系）

1. 概要

ユーカリ油は *Eucalyptus globulus* Labillardiere またはその他近縁植物 (Myrtaceae) の葉を水蒸気蒸留して得た精油で、主要成分は植物の種により異なり (1) (2)、シネオールを主成分とするもの、ピペリトン、フェランドレンを含むもの、シトロネラル、酢酸ゲラニルを含むものに大別される。

シネオール系ユーカリ油は成分としてシネオールを 70% 以上含有する。そのほか p-cymene、terpineol、cuminal、pinene などであるが、品種によりシネオール以外の含有成分に大差がある。少量成分として、低級脂肪族アルデヒド、phellandrene、phellandral およびセスキテルペンなどが含まれる。用途は薬用が多く口腔剤、咳止め、うがい薬、歯磨き、消毒剤、殺菌剤、防虫剤、選鉱剤などである。(1) (2) (3) ピペリトン、フェランドレンを含むものは主に工業用として合成香料の製造原料として、シトロネラル、酢酸ゲラニルを含むものは主に香料用として用いられる。(2) (3) また、人造ユーカリ油は通常カンフルを含むのでカンフルについても考慮する（ただし含有しない製品もある）。ここではシネオール系のユーカリ油について記載する。

2. 毒性

経口

致死量：4mL 以上で死亡の報告あり。(4)

小児：1mL 未満でも致死性である。(5)

中毒量：1mL：一過性の昏睡を引き起こす (4)

小児でのメタ分析 (27 例の調査) (4) (6)

平均 1.7mL (0.2~5.0mL) 摂取した 10 名：無症状

平均 2.0mL (0.2~7.0mL) 摂取した 11 名：軽度の中毒*

平均 2.5mL (0.6~5.0mL) 摂取した 5 名：中等度の中毒*

平均 7.5mL 摂取した 1 名：重症の中毒*

～重症度の評価基準～

軽度：運動失調、嘔吐、心窩部痛、縮瞳

中等度：傾眠もしくは GCS8~14 等

重症：意識消失、刺激に反応しない、換気過少を伴わない GCS3~7 が一定期間続く等

218mg/kg：睫毛（まつげ）痙攣、傾眠、呼吸抑制 (7)

推定 5mL (2.5 歳)：数回の無呼吸がみられた。(4) (8)

(参考) 治療量 (医薬品：海外) 経口：一回 0.05~0.2mL か、角砂糖に 5~10 滴たらず。(4)

3. 症状

一般的な初期症状：心窩部痛、嘔吐、下痢

通常 2~3 分以内に嗜眠状態となり、15~30 分以内に昏睡を伴った中枢神経抑制が速やかに起こる。

症状発現は 4 時間まで遅れることがある。

めまい、運動不能、上腹部の痛み、冷や汗、頭痛、チアノーゼ、運動失調、縮瞳、せん妄、痙攣が起こることがある。呼吸困難、気管支痙攣、急性肺傷害、血圧低下が起こることがある。

通常回復は速やかで24時間以内である。しかし死亡例の報告もある。(4)(9)
その他、軽度の皮膚刺激作用がある。接触性皮膚炎や蕁麻疹の報告もある。
(4)

4. 処置

家庭で可能な処置

吐かせてはいけない（誤嚥性肺炎、中枢神経抑制、痙攣を起こす可能性がある）

医療機関での処置

禁忌：催吐（誤嚥性肺炎、中枢神経抑制、痙攣を起こす可能性がある）

胃洗浄、活性炭の投与。

解毒剤、拮抗剤はない。

対症療法

5. 確認事項

- 1) 摂取量、呼気臭
- 2) 患者の状態：症状の有無。
- 3) 問い合わせ時には症状がなくても、誤嚥による症状が遅れて出現する可能性あり。
- 4) 人造ユーカリ油についてはカンフルについても考慮する。

6. 情報提供時の要点

- 1) 症状のある場合には受診を指示
- 2) 100%のユーカリ油を少量でも摂取している場合は症状が出る可能性が高いので受診を指示
- 3) むせたり、咳き込んだり、誤嚥した可能性のある場合は受診を指示

7. 体内動態

吸収：1,8-シネオールは消化管、皮膚、呼吸器から容易に吸収される。(4)

排泄：肺から排泄される。わずかに糞便、尿、皮膚からも排泄される。(4)

呼気や分泌物中に特有のユーカリ臭が数日間持続するので診断の手がかりになる。(10)

8. 中毒学的薬理作用

1,8-シネオールは、皮膚と気管支腺に対して軽度の反射刺激性がある。(4)

9. 治療上の注意点

催吐は誤嚥性肺炎、中枢神経抑制、痙攣を起こす可能性があるため禁忌(4)

10. その他

人造ユーカリ油

- 樟脳油を蒸留して得たシネオール含有留分（樟脳白油、ホワイトカンファア油）はシネオール（20～25%から50%）を含有するので、人造ユーカリ油として使用された。シネオールのほかにカンファー（30～50%）を含有している。(1)(2)(9)

ただし、カンフルを含有しない製品もある。

- 中国に多い油樟の油もシネオール含量が多いので、中国産ユーカリ油（*Eucalyptus Chinensis*、*Eucalyptus Chinise*）の名で市場に出ていた。

(1)(2)

12. 参考文献

- (1) 第十三改正 日本薬局方解説書 (1996)
- (2) 香料の実際知識 (第2版) (1999)
- (3) 商品大辞典 (1982)
- (4) POISINDEX (2003)
- (5) Medical Toxicology; Diagnosis and Treatment of Human Poisoning (2nd) (1997)
- (6) Tibballs J: Med J Aust, 163:177-180, 1995
- (7) RTECS (2003)
- (8) Spoerke DG et al: Vet Hum Toxicol, 31:166-168, 1989
- (9) 精油の安全性ガイド (1999)
- (10) 化学物質毒性ハンドブック 臨床編第I巻 (2002)

13. 作成日

20030000 Ver. 1.00

ID M70340_0100_2